3 コミュニティ・スクールのセカンドステージへ

(1) セカンドステージの実現に向けてめざすこと

①各学校運営協議会の「質の向上」

- ・協議内容の充実
- ・・・・課題改善に向けた具体的内容の協議へ
- 人材確保の方法についての検討
- ボランティア組織、地域自治組織、PTA 等との連携のあり方の検討

②「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の一体的な推進

- ・新学習指導要領における「開かれた教育課程」 の実現
- ・学校運営協議会を活用した地域学校協働活動の「PDCAサイクル」の推進

(2)各協議会の取組

- ①更なる情報発信
 - ・広報紙の発行やHPの充実
- ② 協議内容の焦点化
 - 課題の精選(課題の明確化な提示、 教職員との意見交流の機会の確保等)

③持続可能な組織づくり

- 委員や教員の負担軽減(会の開催方法の工夫や組織の整理等)
- ・委員や活動参加者がやりがいを感じられる工夫(成果の見える化、無理なく参加できる仕組みづくり等)

(3)市教委の取組

- (1)情報交換の場の設定(情報交換、実践発表)
 - •「推進協議会」(年2回、対象:各会長)
 - 「**拡大推進協議会**」(年1回、対象:各会長、管理職)
 - 「CSディレクター研修会」(年1回)

②研修の場の設定(実践発表、講話等)

- 伊丹市コミュニティ・スクール研修会
- 伊丹市コミュニティ・スクールフォーラム
- ③アンケートや指導主事の参加等による 実態把握及び課題検証の実施

(4)「社会に開かれた教育課程」の実現と「地域と学校の連携・協働」



コミュニティ・スクールの充実

~学校運営協議会の活性化~

令和2年(2020年)6月 伊丹市教育委員会

1 伊丹市のコミュニティ・スクールの現状

(1)学校運営協議会設置状況

設置年度	学校数(合計)	学校(全26校 小17、中8、高1、特支1)
平成27年度	4校(4)	【小】神津小・花里小【中】東中・松崎中
平成28年度	6校(10)	【小】伊丹小・南小・桜台小・荻野小【中】天王寺川中・荒牧中
平成29年度	7校(17)	【小】天神川小・笹原小・摂陽小・鴻池小【中】北中・笹原中【高】伊丹高
平成30年度	7校(24)	【小】稲野小・緑丘小・瑞穂小・有岡小・鈴原小・池尻小【中】西中
平成31年度	2校(26)	【小】昆陽里小【中】南中
令和2年度	1校(27)	伊丹特別支援

(2)協議内容(抜粋)

●小学校

く教育活動の支援> ・学習の充実に向けて(九九検定の補助、家庭科の実習等の補助、土曜学習の充実等)

・特別活動等の支援について(クラブ活動、大掃除の手伝い等)

どのように人材を確保するか

く生活指導の支援> ・朝食摂取率の向上に向けた家庭との連携方法

くその他> ・教員が子どもと向き合う時間の確保に向けて

(児童が植えた植物の世話、休日等の飼育動物の世話、理科の実験準備の補助 等)

・学校運営協議会の組織のあり方、PTAや地域との連携方法について

●中・高等学校

く教育活動の支援> • 学力向上に向けて(授業参観を踏まえた協議、スマホの使用状況について)

・体験の充実にむけて(家庭科の実習等の補助、進路に係る面接指導の補助等)

<学校生活の支援> ・ 不登校生が学校復帰するための支援について

・標準服(制服)のあり方について

くその他> ・学校支援の実現に向けて、どのように人材を確保するか

・市内小・中・特別支援学校との連携方法について

(3)各学校運営協議会における工夫

●協議内容等の広報、委員の紹介

- ・学校運営協議会だより等の作成、配布
- ・学校HPに学校運営協議会のページを作成
- ・PTA総会や職員会議での紹介
- HPにおける写真等の掲載

●教員や他の協議会との交流

- 合同研修会における委員と教員の協議
- ・ 懇談会、意見交換会の実施
- ・中学校ブロックでの研修会
- ・中学校ブロック「<mark>合同学校運営協議会</mark>」の実 施にむけた検討

2 学校運営協議会の取組から見えたもの

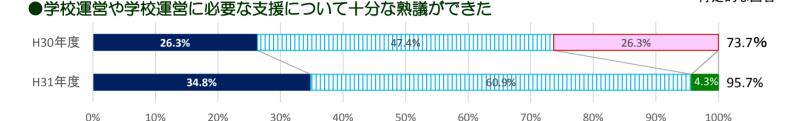
(1)平成31年度学校運営協議会アンケートについて

- ●実施時期 今和元年11月末~12月中旬
- 文寸 各学校運営協議会会長(26協議会)、各小・中・高等学校長(26校)

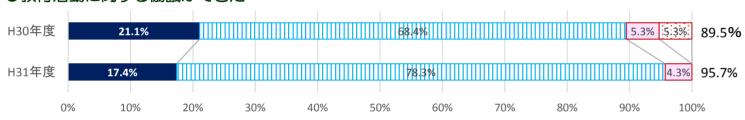
(2)成果(肯定意見が多かったもの)

■とても思う ■思う □あまり思わない □思わない ■無解答

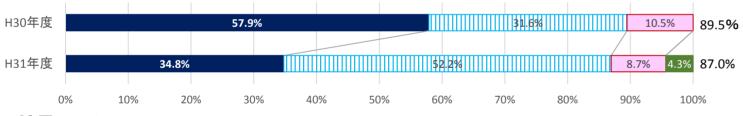
<会長アンケートより>



●教育活動に関する協議ができた

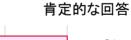


●学校運営協議会の取組にやりがいや誇りを感じている

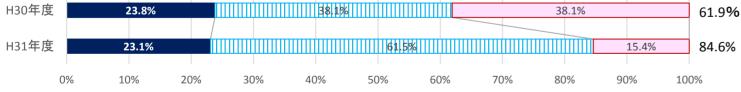


<校長アンケートより>





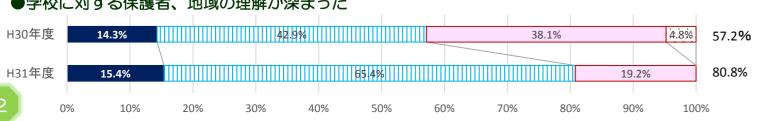
肯定的な回答



●学校関係者評価が効果的に行えるようになった。

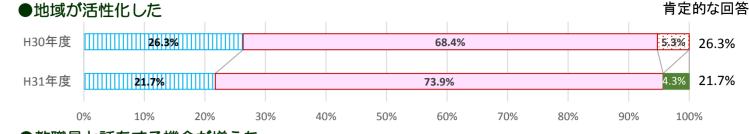


●学校に対する保護者、地域の理解が深まった

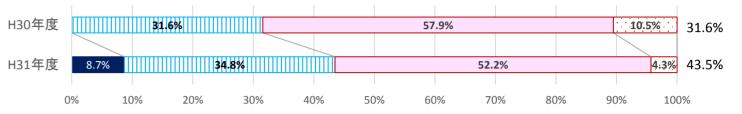


(3)課題(肯定意見が少なかったもの)

<会長アンケートより>



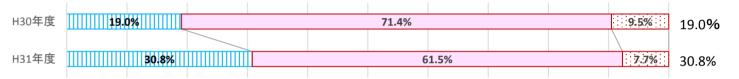
●教職員と話をする機会が増えた



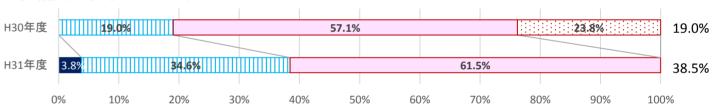
<校長アンケートより>

教育課程の改善・充実が図られた

肯定的な回答



●教職員の業務改善につながった



課題と感じていること、今後必要だと考えること(自由記述欄から)

<会長アンケートより>

人材の確保 (地域人材の発掘、ボランティアの確保)

人材 確保

<校長アンケートより>

・ 人材の確保 (地域人材の発掘、CSディレクター)

教員との交流 (教員の思いを知りたい)

教職員と の連携

- 教職員と学校運営協議会委員との意見 交換、連携、教職員への研修
- 自治協議会等との連携のあり方について
- 幼小中連携の仕組み作り
- 教育委員会事務局との情報共有
- 更なる保護者や地域への取組の情報発信
- ・報告会から協議の場への転換、協議の充 実
- 明確な目標設定が必要
- 活動費用の確保、物品確保の場所の確保

他組織と の連携

その他

- 地域組織、PTA、SC21等との連携 のあり方についての検討
- 幼小中の連携
- ・組織の整理、継続的な組織づくり
- CSディレクターとの効果的な連携
- ・ 委員改選時の引き継ぎが難しい
- ・教職員や PTA等との負担軽減
- 会議の持ち方に工夫が必要
- (全員で協議すると話が進まない)